

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671700221
法人名	社会福祉法人 高越会
事業所名	グループホーム 希望の家
所在地	徳島県吉野川市山川町川東90-1 (電話) 0883-42-7588
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 9日

## 【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年 10月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての		1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 850 円		

### (4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中西内科クリニック
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体医療機関と同じ敷地内にホームがあり、季節の花が咲いている花壇や、家庭的な玄関がある。中に入ると職員は穏やかで、ゆったりとした支援をされている。また、利用者も落ち着いた雰囲気生活されていた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回、前々回の改善項目である、危険物の保管について明文化されている。地域資源を活かした介護計画の作成や見直し、緊急の手当や感染症対策における学習や訓練、継続的な職員研修の体制作り、市町村との連携において十分な改善が見られない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員間で話し合い作成し、検討されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の議事録は作成されているが、内容を職員に回覧し共有するシステム作りがされていない。また、会議の開催は、3ヶ月に1回となっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 地元の利用者、家族には意見や苦情を聞く機会を設けている。しかし、県外の利用者家族については聞く機会が設けられていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元の自治会長に運営推進会議の委員になってもらい地域の理解を得ながら支援してもらえるよう働きかけている。

## 2. 評価結果（詳細）

（   部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	”みんなで一緒に支え合う”を理念に管理者・職員が共に地域密着型サービスとしての実践に取り組んでいる。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ミーティングや日々の申し送りの中で共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長に運営推進会議に出席してもらい今後の情報収集に努めている。また、買物や散歩時にはご近所の方々と言葉を交わしたり、ケアハウスの入居者とは常に行き来し、交流が深い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員間で話し合い作成されているが、外部評価結果は職員に回覧するシステムがなく周知されていない。	○	自己評価と外部評価の意義を理解して、評価結果を職員間で共有して話し合い、改善に取り組んでいかれたい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録は作成されているが、職員に内容を周知する仕組みが作られていない。また、開催は3ヶ月に1回となっている。市より連絡があり、次回より地域包括支援センターの職員がメンバーとして参加することとなった。	○	2ヶ月に1回開催されたい。運営推進会議の内容を職員にも周知し、ホームの運営に反映させる取り組みをされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月初めに利用者状況の報告に市役所を訪ね、その折相談したりするようにしているがそれ以外は特別に行き来する機会はない。	○	利用者状況の報告以外に市町村と連携する機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んで行きたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ファミリー便りにおいて報告をしている。月末の利用料を請求する時にその月の一番良い表情をされた写真を同封し、ホームでの暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地元の利用者・家族には意見や苦情を聞く機会を設けているが、県外からの利用者家族についてはその対応がされていない。	○	県外の利用者家族に対しても意見や苦情を聞く機会を設けるよう取り組まれない。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人が別の場所にグループホームを開設した折に異動があったが、利用者にダメージを与えないように馴染みの職員を段階をおって異動するように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画書は無いが運営者は研修参加に理解があり、参加希望すれば、受講できる。受講ニーズのある研修を推奨している。	○	研修計画を立て、段階に応じて受講できるよう取り組まれない。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の行事にお互いに参加しあったりマニュアル作りや行事計画作成の情報交換を実施している。また、地域の同業者との交流も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して生活ができるように、事前にホームに来所してもらうなど利用者、家族と相談しながら徐々に馴染めるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は一緒に夕食の献立を考えるなど、ごく普通に行動され共に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で希望・意向を汲み取る努力をされているが、意思疎通が困難な利用者の思いを汲み取るためには、家族からの聞き取りが必須であるが、その記録がない。	○	意思疎通の困難な利用者の思いを汲み取るような取り組みを検討されたい。また、家族から聞き取りをした記録を残されたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には面会時に意見や希望を聞き、職員間では日々の気づきや変化等を話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングをして見直しをした項目が明記されているが、次のケアプラン作成に反映されていない。	○	見直し後のプランニングをされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望時に通院介助をしたり、その他の医療機関についても家族の都合や希望に添えるよう柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と話し合い、かかりつけ医が母体医療機関の利用者もいるが、他の医療機関の受診にも対応しており体制は整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時には隣接する医療機関との連携で対応している。家族の意向を十分に確認しているが、内容を文章化するまでには至っていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人、家族、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有されたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけない声かけやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人のペースや体調に配慮して、役割活動をしたり会話を楽しんだり本人の希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き献立を立てたり、楽しく食事ができるよう雰囲気作りをし調理や後片づけも手伝ってもらい一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好みによって昼食後から各々の希望に合わせて入浴支援が実施されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできることを見つけ、洗濯物たたみ、掃除、料理の下ごしらえ、後片づけなどを職員と共に役割活動を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の折は本人の希望に応じて散歩をするなど戸外の風にあたるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠はしていない。夕方4時頃になると徘徊される方がいるので外部からは入れるが外に出られないよう夕方に玄関が施錠されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で防災計画や避難訓練がされているが、グループホーム独自の避難経路図等が作成されていない。	○	グループホーム独自の避難経路図等を作成し、職員や利用者が常に意識できる体制作りが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はスタッフが利用者と相談して作っている。栄養摂取については併設施設の栄養士にチェックを依頼し、適切に食事提供をされている。水分量・食事量の記録も毎回されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるようにホールの飾り付けが工夫され、食事のメニューにも季節の食材を使うなど気配りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	湯飲み、コップの持ち込みや、利用者に合わせて居室作りがされているが、遠隔地からの入居者については馴染みの品物があまり持ち込まれていない。	○	入居時に家族の方に「思い入れの深い物」がなぜ必要なのかを説明し協力してもらえよう取り組んでいかれたい。